救急科専門医新規申請手続きについて

【対象：2025 年までに第二次（診療実績）審査に合格した者】

日本救急医学会専門医認定制度については 2025 年にて終了となりましたが、2025 年までに第二次（診療実績）審査に合格した者を対象に 2026・2027・2028 年の 3 年間について救済措置を実施いたします。救急勤務歴に変更があり再受審を希望する場合は、救急科専門医新規申請書類（第1次審査：救急勤務歴）につきまして、専門医認定制度（https://www.jaam.jp/senmoni/senmoni.html ）に従い、下記の通りご提出ください。なお、必要に応じて、申請書類の履歴に関し、その裏付けとなる資料を提出して頂く場合がございますので、予めご承知おきください。

記

＜申請資格（対象者）＞

日本救急医学会専門医認定制度にて、2025 年までに第二次（診療実績）審査に合格した者

注）日本国の医師免許を有し、本会の会員であること

＜提出書類＞「記載・提出時の注意点」に則り、書類を綴じた上でご提出ください。

1.	申請書 兼 会員歴証明書（専門医書式第1号）	正1部	コピー11部
2.	履歴書（専門医書式第2号）	正1部	コピー11部
3.	救急勤務歴証明書【救急専従歴】（専門医書式第3号の1）	正1部	コピー11部
4.	救急勤務歴証明書【救急兼任歴】（専門医書式第3号の2）	正1部	コピー11部
5.	医師免許証のコピー（白黒・A4サイズに縮小可）		コピー 1部
6.	申請手数料の入金証明（ATM利用明細、送金完了画面等）		コピー 1部
7.	新規申請提出書類チェックリスト	正1部	

＜提出締切日＞2027年2月28日（日）【消印有効】

締切日を過ぎて提出された申請書類は一切受理せず返却いたしますので、充分ご注意ください。
書留郵便等、配達記録の残る方法で送付して下さい。

＜申請手数料のお振込方法＞

申請手数料：**11,000円（税込）**について下記の要領にてお振込ください。
誠に勝手ながら、事務処理の都合上、**2027年1月1日以降**にお振込みをお願いいたします。
①振込人欄：**「会員番号（会員ID） + 氏名（カタカナ）」** の順に記入（入力）してください。
会員番号（会員ID）は、会員専用ページ（e医学会）＞学会会員検索 で調べられます。
（例）会員番号（会員ID） ya0001番 山田太郎先生の場合 ⇒ **YA0001ヤマダタロウ**
②振込先：銀行名：三菱ＵＦＪ銀行 本郷(ほんごう)支店
預金種別：普通預金
口座番号：**１１４１０６３**
口座名義：一般社団法人日本救急医学会(ｲｯﾊﾟﾝｼﾔﾀﾞﾝﾎｳｼﾞﾝﾆﾎﾝｷｭｳｷｭｳｲｶﾞｸｶｲ)

＝申請書類提出・問合せ先＝

日本救急医学会 専門医新規申請係
〒113-0033 東京都文京区本郷 3-3-12
ケイズビルデイング 3 階
TEL03-5840-9870

【救急科専門医新規申請】　審査方法について

下記 3 段階で審査し、審査を合格した申請者のみが次の審査に進むことができる。

1.　救急勤務歴審査：配点上限 **10 点**

2.　診療実績審査：配点上限 **10 点**

3.　筆　記　試　験：**80 点**満点

総合判定として、合計 100 点満点中、**総得点 70 点以上**を合格とする。

■救急勤務歴審査

1. 救急勤務歴について

救急勤務歴審査においては、**救急勤務歴 3 年（36 か月）以上**を合格とする。
救急勤務歴とは、救急専従歴と救急兼任歴をいう。この場合、勤務施設が救急科専門医指定施設であるか否かを問わない。卒後初期臨床研修に関しては、救急専従歴のみ救急勤務歴に含むことができる。
また、救急兼任歴については「3.救急兼任歴について」により救急勤務歴に加算する。専任歴については一括して救急兼任歴として扱う。なお、救急専従歴の期間と重複して救急兼任歴を申請することはできない。
救急勤務歴 3 年以上のうち、少なくとも 1 年以上の救急専従歴を必須とする。1 年の救急専従歴の無いものは申請することができない。

2. 救急専従歴について

1）救急部門に所属すること。
2）救急部門の診療に従事すること。
※職員就業規則等において正規職員に定められた勤務時間を救急部門での業務に従事すること
3）専従歴の最小単位は連続して 3 か月以上とし、専従歴に加算することができる。
卒後初期臨床研修に関しては，専従歴の最小単位は連続して 1 か月以上とし，最大 3 か月まで専従歴に加算することができる。

3. 救急兼任歴について

兼任期間については、下記換算方法により救急勤務歴に加算する。勤務施設が救急科専門医指定施設であるか否かを問わない。

$$\frac{\text{（月数）} \times \text{X}}{6}$$

・「X」：週の関与回数　※週 2 回までとし、3 回以上の関与は認めない。
・勤務形態の「一日」「半日」「夜間」の区別なし

（例①）週 1 回の救急兼任を 36 か月間行った場合
36 か月×1 回／6＝6 か月となり、救急勤務歴に 6 か月加算

（例②）週 2 回の救急兼任を 25 か月間行った場合
25 か月×2 回／6＝8.33 か月となり、救急勤務歴 8.33 か月に加算(小数点第 3 位を四捨五入)

4. 救急専従歴に対する加点

第 3 次審査終了後の総合判定においては、救急勤務歴のうち、救急専従期間について、下記のとおり配点し、その**上限を 10 点**とする。ただし、**必須の救急専従期間および兼任期間は 0 点**とする。

(1) 救急科専門医指定施設での救急専従・・・**1 年につき　5 点**
(2) 非指定施設での救急専従　　・・・**1 年につき 2.5 点**

1 年に満たない救急専従期間については、下記のとおり算出し、加算する。

(3) 救急科専門医指定施設での救急専従・・・　**5（点）×（月数）　／ 12**
(4) 非指定施設での救急専従　　・・・**2.5（点）×（月数）　／ 12**

（例③）救急科専門医指定施設での救急専従期間が 5 年間の場合
5 点×（5 年－必須の救急専従期間 1 年）＝20 点ではなく、10 点となる

（例④）A 病院（救急科専門医指定施設）救命救急センターでの救急専従期間が 1 年 6 か月
B 病院（非指定施設）救急部での救急専従期間が 2 年の場合
＜救急勤務歴＞A 病院での救急専従歴　1 年 6 か月
B 病院での救急専従歴　2 年　　合計 3 年 6 か月となる
＜配　　点＞A 病院での点数　5 点×1 年＋5 点×6 か月／12
B 病院での点数　2.5 点×（2 年－必須の救急専従期間 1 年）合計 10 点となる

（例⑤）C 病院（救急科専門医指定施設）救命救急センターでの救急専従期間が 2 年
同病院 外科 週 1 回 1 日の救急兼任期間が 6 年の場合
＜救急勤務歴＞救命救急センターでの救急専従歴　2 年
外科での救急兼任期間を救急勤務歴に加算し、
72 か月×1 回／6＝12 か月　　合計 3 年となる
＜配　　点＞救命救急センターでの救急専従期間の点数　5 点×（2 年－必須の救急専従期間 1 年）
外科での救急兼任期間は 0 点　　合計 5 点となる

■診療実績審査

救急勤務歴審査に合格したものが対象となる。審査方法については、診療実績表および注意事項を参照すること。
なお、診療実績審査の際に提出できるのは、救急勤務歴審査で救急部門の専従または兼任として申告のあった施設、ならびにその期間内での経験症例のみとする。また、症例の有効期間は申請年 3 月 31 日までの 10 年間とする。

■筆記試験

診療実績審査に合格したものが対象となる。

■審査のスケジュール

1 月 1 日～2 月末日	第 1 次（救急勤務歴）審査　申請受付
4 月下旬頃	第 1 次（救急勤務歴）審査　合否通知発送
5 月 1 日～6 月末日	第 2 次（診療実績）審査　申請受付
8 月下旬頃	第 2 次（診療実績）審査　合否通知発送
9 月~10 月頃	第 3 次（筆記試験）審査
10 月	最終合否通知発送
翌年 1 月 1 日～5 年間	専門医認定

注）上記は例年のスケジュールに基づくものです。変更となる場合がございますので、予めご了承ください。

以　上